



「笑い」と「汗」と「続けること」

校長 吉満 ふくみ

突き抜けて 天上の紺 曼珠沙華 山口 誓子
(つきぬけて てんじょうのこん まんじゅしゃげ) (やまぐち せいし)

現代語訳…秋の空が突き抜けるように高く、その深い紺色の空に向かって真っ赤な曼珠沙華(彼岸花)が咲いている。

この俳句は、大正から平成の時代に活躍した作者が病氣療養中の頃、鬱々としたものを抱えていた中で作られた句であり、「黒の時代」を抜けた構成俳句の再来と言われています。

昼間は30度を超える日があるものの、少しずつ日暮れの時間が早くなり、秋の気配を感じる季節となりました。彼岸花は、9月のお彼岸の時期を待っていたかのように開花します。開花期間も数日と短く、お彼岸の時期が終わる頃には花も枯れてしまいます。花が咲く時には葉がなく、一本の茎がすっと伸びた茎に大輪の花を咲かせる彼岸花。

朝の登校指導をしている近くの畑にも咲いており、登校した子供たちと「今年も彼岸花が咲いたね。花火のようにパツと明るく咲く花は、秋という季節をよく知っているよね。」と話すと、「校長先生、本当にきれいですよね。でも、彼岸花には毒があるんですよね…。」と話が続きしました。自然豊かな種子島で育つ子供だからこそ知っている知識でもあります。

子供たちの大きな事故や怪我等もなく2学期を始めることができ、先日の校区と合同の大運動会を開催することができましたのも、御家庭や校区の方々の御支援・御協力があったからこそです。皆様に感謝申し上げますとともに、今後もよろしく願いいたします。



【きれいに咲いた彼岸花】

始業式では、2学期にあたり、「笑い」と「汗」と「続けること」について話をしました。

まず、「笑い」についてですが、マスクをしていた時には、思いっきり笑うことが減ってしまい、お互いの笑顔を感じることも少なかったのではないのでしょうか。「笑い」といってもいろいろありますが、なにも大声を出して笑いなさいというわけではなく、にこやかな微笑みや明るい微笑みは人の心楽しく爽やかにしてくれます。「笑い」によって自分だけでなく周りの人も明るく和やかにしていきます。このことは**本校のめざす子ども像の「明るい子」**につながるのです。

次に「汗」についてです。暑い中で身体を使うと汗が出ます。汗は、体温の調整という大きな働きのほか、体の中のいらなくなった悪いものをどんどん体の外へ出していく働きがあります。私も今年の夏はずいぶん汗を流しました。何かに一生涯懸命取り組み、汗びっしょりかいて、水分補給をしたあとの爽やかさは何とも言えません。運動会や他の行事でも、多くの汗を流し、みんなで一つの目標に向かって、力を合わせていきましょう。

次に「続けること」です。多くの行事がある2学期なので、みなさんには「何か一つ長く続けられることを見つけて、それを長く続けてほしい」ということです。例えば、「毎日20分間読書をする」「毎日5個の新しい漢字を練習する」「毎日玄関の掃除をする」「毎日3回以上授業中に手を挙げて発表する」など、続けることは特別なことでなくてかまいません。「汗」をかいて「何かを続けること」は、**本校のめざす子ども像の「自ら学ぶ子」「元気な子」**につながります。

81日間という長い2学期も合言葉「わたしも大切 あなたも大切」で三つの大好き「自分大好き 友だち大好き 学校(地域)大好き」になれるように、みんなで力を合わせてがんばり、それぞれが伸びていく2学期にしていきましょう。

【9月24日～30日は「結核予防週間」】

【公益財団法人結核予防会 HP】→

厚生労働省では、毎年この期間を定め、結核に対する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。感染症に対する差別・偏見をなくすためにもまずは「自ら」!



